

第1期 第8回 横浜市市民協働推進委員会議事録	
日 時	平成27年3月9日（金）午後6時2分から午後9時9分まで
開催場所	横浜市市民活動支援センター4階 セミナールーム1
出席者	小濱哲委員長、奥山千鶴子委員、酒井正樹委員、時任和子委員、中島智人委員、治田友香委員、松村正治委員、三輪律江委員
欠席者	
開催形態	公開（傍聴者6人）
議 題	<p>(1) 審議事項</p> <p>ア 特定非営利活動法人の条例指定について</p> <p>イ 横浜市市民活動支援センター事業の検証について</p> <p>ウ 平成27年度横浜市市民活動支援センター自主事業の審査について</p> <p>エ 平成27年度第1回横浜市市民活動推進ファンド団体登録及び助成金交付審査等について</p> <p>オ 横浜市市民活動推進ファンド（夢ファンド）の寄附の新たな活用方法（組織基盤強化助成金）について</p> <p>カ 協働を進める際の「公共的又は公益的な活動及び事業」の考え方等の整理について</p> <p>(2) 報告事項</p> <p>ア 平成26年度協働の「地域づくり大学校」事業 事業報告について</p> <p>イ 「つながりのまちづくりフォーラム2015」について</p> <p>(4) その他</p>

1 開会

(小濱委員長) 皆さん、こんばんは。これより第1期第8回の横浜市市民協働推進委員会を開会いたします。本日の出席状況ですが、6人の出席で過半数の出席がありますので、市民協働条例施行規則第8条第2項の規定による充足数を満たしています。これを確認いたします。

2 議題

(1) 議事録確認

(小濱委員長) では、議事に先立ちまして、事務局において人事異動があったそうなので、事務局から紹介をお願いします。

(事務局) 前任の地域防犯支援課担当課長の稲邊が3月5日付けで異動になりまして、今回神奈川県警から新たに担当課長として、倉田が参りましたので御紹介いたします。

(倉田課長) (挨拶)

(小濱委員長) ありがとうございます。

それでは、お手元に議題について議事を進行していきます。初めに、前回の議事録の確認をお願いします。

(事務局) 資料により説明

(小濱委員長) 何か御質問、御意見等はございますか。

では、前回の会議録につきましては御確認いただいたことにさせていただきます。

(2) 審議事項

ア 特定非営利活動法人の条例指定について

(小濱委員長) では、審議事項を始めたいと思います。まずは、アです。特定非営利活動法人の条例指定について、事務局より説明をお願いします。

(事務局) 資料により説明

(小濱委員長) ただいま報告いただきました内容につきまして、何か御質問等はございますか。

では、これにつきましては、指定に向けた手続をすることが妥当であるということで、御了承していただけますでしょうか。

(了承)

どうもありがとうございました。

こらぼネットの皆さん、よかったですね。これからも一生懸命頑張ってください。御苦労さ

までした。

イ 横浜市市民活動支援センター事業の検証について

(小濱委員長) 次に、イの横浜市市民活動支援センター事業の検証について、事務局から説明をお願いします。

(事務局) 資料により説明

(小濱委員長) ただいま御説明いただきました検証の趣旨、進め方等につきまして、何か御意見等はございますか。

それでは、事業実施団体の方々に26年度の事業報告、それから27年度の事業計画について御説明いただきまして、その後に質疑応答を行いたいと思います。

それでは、事務局で司会進行をお願いいたします。

(事務局) それでは、運営事業実施団体を御紹介させていただきます。特定非営利活動法人市民セクターよこはま様でございます。準備が整いましたら、26年度事業報告、27年度事業計画の説明を20分をお願いいたします。なお、1分前にベルを鳴らさせていただきますので、よろしくをお願いいたします。

(市民セクターよこはま) 資料により説明

(小濱委員長) 御感想、御意見いかがでしょうか。

(中島委員) 事業をうかがっていて、特に調査をされて、そこから知見を得られたことを紹介してくださいましたので、説得力があります。データになっていると良いなと思いましたので、ぜひ今後の活動に活用してください。

色々な事業をされていて、個別の事業というよりも全体的ですが、参加者の方が学び合う機会、お互いに学習し合うという環境を意識してつくられているのではないかという印象を受けました。センターとしては、研修、事業の開催回数というのは自ずと限られてしまいます。その中で参加した方々同士が自発的にもっと学んだことを深め合うようなことを意識的につくって、センターは最終的には最初のきっかけをつくって、あとは場所も提供されるわけですから、そういうことをされると最初に使ったお金が何倍にもなって返ってくるのかなという印象を受けました。

これは質問なんですが、新規の2015年度のテーマで、テーマ3のところでは団体設立準備中や設立から数年、慣れていない団体をサポートするというのをうたっていますが、このような団体をターゲットにした意図というか狙いをもう少し教えてください。

(市民セクターよこはま) 市民活動支援センターまで足を運ぶ方は運営に慣れていない方や立ち上げの方が圧倒的に多いのに、会計講座一つをとっても実務者編をやっていました。しかし、ニーズとしては、NPO法人になってからの「はじめの一步」の部分をもう少しスムーズにできたらということで、テーマ3が入りました。

(小濱委員長) 松村委員、いかがでしょうか。

(松村委員) アンケートは大体25%ぐらいの回収率になっているかと思います。これを高いと見るか低いと見るかですが、回答された方に対しての課題に基づいて次の計画を立てていくということは、すごくわかります。しかし、残りの75%の団体は一体どうなっているのか。市民活動を支援するという立場ですが、そこに回答することが支援に活かされている、あるいは活かされるという実感がそれほどないのかなど。運営の仕方が悪いというのではなくて、恐らくそういうところに問題があるのではないかと思います。むしろ回答できる団体はまだいいのかもしれません。

気になるのは、ここで議論されていることも非常にいろいろなNPO、市民活動の中でのコアというか、三角形でいうと非常にトップのところでも議論しているような気がしています。NPOという言葉についてはかなり広がっていますが、日常で起こっていることを解決していく上で、NPO、そういう地域団体がすごく助けになるという、そういう理解、実感を広げていかないと、あるいは広がっていかないといけないだろうなと思います。特に、最近の社会が個別、孤立化しているという状況で、個人ではなくて何か組織として、団体として、行動を起こしていく、そうしたときに中間支援して下さるところがあると非常に助けになる、そういう実感を広げていくのがいいのかなと思います。

そうしたときに、アンケートに答えられない、答えてこないような団体の課題が気になりました。中島委員がおっしゃったように、データをもとにして課題を考えていくと考えると、非常に説得力があるプレゼンテーションだったと思います。むしろデータにあらわれてきていないものというのが、横浜における市民活動の中では大きな問題になってきていると考えていますので、そのような部分についても少し考えていただきたいと思います。

(小濱委員長) 三輪委員、いかがでしょうか。

(三輪委員) 私も同じようなことを考えていまして、とても多岐にわたって部分的には深く、そしてピンポイントで押さえている、そういう印象があります。来年度に向けても、そこを研ぎ澄ませていくという動きが必要だと思いつつ、例えばアンケートもその一角だと思いますが、そこまで至らないというお話があったように、至らないというところ、あるいは今回もNPO

に限定しない市民活動をどうするのかとか。あるいは、行政の中でももしかしたら行政側がそういう情報を集約しているかもしれないけど、なんとなくまず今年の調査はもしかしたらNPOに限定したところだったりするのかもかもしれませんが、少し押さえをしていく中で編み目のように理解していくというか、氷山の部分の下の部分があるような構造になっているのかというのを知りたいところだなという、知ってほしいなというところかなと思いました。

それはもしかしたら区版の市民活動支援センターのほうが、むしろ掌握していて、何度もそういう話題が出ていて、すみ分けの部分もあります。違った分野の行政の窓口が入っているかもしれないし、場合によっては福祉法人、企業、違った主体がその課題性を握っているかもしれないけど、それはアンケートという一斉のやり方ではなくても、言葉の節々にそういうニュアンスが出てきたり、ヒアリングという方法もあると思います。

少し体系的にそういうところをとらえながら、このチャンネルにはこう。この部分にはこう。ということのすみ分けが見えてくると、ターゲットに対して詳細な突っ込みが見えるのではないかなと思います。

(小濱委員長) 治田委員、どうぞ。

(治田委員) 非常に広い範囲にわたる活動を職員の方と一緒にやっている様子がかがえて、素晴らしいと思いました。

一方で、私自身自分がソーシャルビジネス支援ということで、NPOに限らず株式会社含めさまざまな法人格で社会課題に取り組む人たちと対応している中で感じているのが、例えばうちがスタートアップの講座をやるときに、横浜市経済局からお金をいただいてやっていますが、実際に参加される方が19歳から88歳で、中心年代は40代から50代となっており、こういうNPO活動に特化して集まってきている方からすると、大分若い層です。

そういう方々に私どもとしてはこういう相談だったら市民活動センターにと思って一応流していますが、なかなかそういう存在に、こんなに頑張っているのに伝わっていないんだなという感じがしていて、そこをどうやって埋めていくというのか、ちゃんと適切なところにつなげていくのかというのが私にとってすぐ近くでやっているのだから、課題は課題なんです。

そう見てきたときに、今の何人かの委員の方もおっしゃっていましたが、今までのNPOを支援するのか、もしくは新しい担い手を発掘して支援していくのかという部分も少し軸として必要になるのではないかなと思います。闇雲に新しい人を入れなさいという意味ではないです。

高齢化しているNPO法人の代替わりをどう進めていくのかということももっと突っ込んで話をしてもいいのかなということもあります。私ども、今回県の事業をとりまして、そういっ

たことの情報発信をしていこうと思っていますが、そんなことも一緒に協業しながらやっていたらいいのかなと思いました。

市民セクターよこはまさんの相談の内容のすみ分けはわかりませんが、これは相談者の内訳というのは、これでわかるようになっているんですか。例えば企業からの相談が全体の何%ありますとか、個人からの相談が何%とか。設立何年とか。どういう人に役立っているのか、どういところにアプローチしているのかというのが、どこか切り取ってやってみるとここがもしかしたら足りてないのかなみたいなことがわかったりするのかなと思いました。

NPOというものの自体がいろいろな社会とつながる窓口であります。実はNPOの中で閉じちゃっている感じがして、そこを取っ払っていく役割もこうしたセンターさんが積極的にやっていると、地元のNPOとの差別化みたいなところもあるのかなと。

あと一方でこれはもしかしたらとっているのかもしれませんが、利用者の横浜市内での分布図、中区が一番だと思いますが、それ以外がどれぐらい使っているのかとか。そういうのがあると、もうちょっと俯瞰して見れるかなという感じがします。

最後にもう1つです。今、行政のいろいろな施策がオープンデータとかそういう形で社会課題が数値化されて、ただ数値化されているだけなんです。それを市民がちゃんと受け取って加工して発信して、その課題についてアプローチをしていくという動きがオープンガバメントは開く側ですが、それを活用する側にも注目されていて、今まで行政課題というのは市民が触れられなかったもの、市民活動はそれをやっていたんだけど、それを裏付けするような取組についても今かなり注目しています。

さっきのアンケートの中で、介護のいろいろな課題が多いというのもありましたが、逆に当たり前で、その先を狙う軸を持って、そのためのヒアリングをしていただきたいと思いました。

(小濱委員長) 時任委員。いかがでしょうか。

(時任委員) 報告ありがとうございました。ネットワーク会議の件で、このミニ研修で職員向けに著作権についてやNPOとは何かということをやられていました。これを一番知りたいのは、現場のNPOだと思います。今はクリップアートもなくなって、会報やチラシにイラストを使おうと思うと、ネット情報に頼ることになり、これは使っているのか悩むことがあるので、ぜひ知識を得たものを区民向けにミニ講座をやっていただきたいと思います。

あと教えていただきたいのは、WISHプランの発表があって、とても有効だったと書いてあったので、どのようなものが出たのか教えてください。

(市民セクターよこはま) 1つが緑区で子育て支援拠点を運営されている「いっぼ」さんの例

なのですが、緑区に外国籍の方を対象とした学校ができたことで、急激に外国籍の方が入ったときに、戸惑いを感じ、またその方たちが居住している自治会、町内会の方にも戸惑いがあった、戸惑いがどんどん支援センターに寄せられたそうなんです。

それでは、みんなで話し合いの場を持ちましょうということで、そのネットワークのきっかけをつくって、これからもやっていきたいというようなものとか、それはWISHプランというか現在進行形に近かったのですが、それを発表してもらうことで、支援センターでも先進的な区はそうやって課題解決の核になっているんだなと大きく刺激になったように思いました。

WISHなので、実際にできるかどうかはありましたが、金沢区では小学校のお子さんを対象に、地域大的なとか、まち歩きなどを地域の人と一緒に、地域の人が子どもたちと歩く形で、まちを知ってもらうという講座を連続でやるという企画が挙がってきました。

(小濱委員長) 奥山委員。いかがでしょうか。

(奥山島委員) NPOの設立してから15年とか20年弱になって、多様な団体が出てくる中で、どこにターゲットを絞ってやったらいいのか戸惑いもあって、アンケートをなさる中で分析をされたということだと思いました。

そのときにテーマごとに、それぞれのNPO等が事業ごとにより切磋琢磨して、課題解決もやっているという流れが1つあって、そこはそこでいろいろ課題もあると思うんですが、もうお任せしておいてもいいかなという部分もあって、本当に皆さん、どこに焦点化していくかということと言うと、先ほど代替わりの話もありましたし、今度リーダーをどういうふうに代えていくのか。そこはみんな苦労しているところかなとか。

それからやはりこれから始めたいという人が一定程度いて、その人たちに本当にわかりやすくトータルにマネジメントの基礎をお伝えすることの難しさ。何か同じところで引っかかるのかなと思うので、そういう解決できる簡単なブックレットでもあったらいいと思います。

それと時任委員がおっしゃったように、ベテランのNPOでも、今、いろいろ変わってくる。著作権とか、そのときで変わってきたようなものを、メールニュースで流してくれたりすると、すごくこれは役に立ったと感じる中で、アンケートが来てもちゃんと書かなければと思ったり、何かそういう形で、焦点化するのは難しい中でも少しポイントでここはきっと課題かなと思うところに発信していただけると、全体として市内のNPOが見えてくるのかなと感じました。

全体として本当に多様な事業をなさっていると報告から感じ取りましたので、引き続きよろしくお願いたします。

(小濱委員長) 酒井委員、いかがでしょうか。

(酒井委員) いつも申し上げているように、地を這うような活動とともに仕事をしている関係で、ここに来るとレベルが高くて圧倒されてしまいます。

御報告いただいた内容を1つ1つ見ていると、感じる場所はたくさんあります。わからなかったのは、ネットワーク事業の中で、各区の市民活動センターの支援の活動をされていますが、実際に地域振興課の職員の方たちを含めて働きかけをやっていらっしゃるんですが、その後の結果、市民に対してどういう成果というか、効果があらわれたのかというところが、ここだけではわからない。その辺のところは後の機会でもいいんですが、教えていただけたらいいなというのと、それから専門の方はいろいろ考えていると思いますが、これから市民活動に参入してくる世代、どんどん人口減少が起こっていったときに、活動そのものがどのように成り立つのかということを見ると、新しくこれから活動に向かい出てくるターゲット、層、この辺を狙っていくと、若い人たちの中では、インターネット、電子的な媒体がたくさんありますが、私自身も今まで使えていたものがだんだんリテラシー、そこが落ちてきている。そうするとブックレットみたいな話もありましたが、そうではない形での提示も考えていかないといけないのかなと感じました。

(小濱委員長) 何かお答えはありますか。

(市民セクターよこはま) 18区のセンターの方は、市民活動支援課さんや私たちが言葉にはしなくても、現場に行こう、現場に答えがあるよということを理解しています。そしてセンターだけでは難しくても、やり繰りの中で生の声を聞きに行こうということ、それと共に考え合う場をもって相互支援、相互の学び合いの中でよりよくなっていく、という意見がそれぞれの発表の中から出てきたんです。私たちがどうこうではなくて、これまでの6年間の積み上げというのが、少し実を結び、また行政内部での制度を活用して、始める区が、5、6区あると聞いておりますので、その関係の中で前進しているという実感を持っております。

(小濱委員長) 皆さんが取り組まれているテーマの次のテーマかもしれませんが、さっきも出ていましたが、NPOの人たちがだんだん高齢化してきますので、高齢者でもできるまちづくりみたいな視点が入ると、アドバイスになるのかなと思いました。

体裁についてですが、以前に比べ格段に進歩しています。文章もレイアウト等、非常に凝ってきていると思います。委員の皆さんの中で指摘もありましたが、せっかくアンケートをとっているのに、数字をもっと上手に出し、グラフもきれいに出了たほうがいいと思います。

例えば、2ページのグラフ、これもいろいろな切り口もありますという指摘がありました。ネットワーク関係のもののように、ソートすると良いと思います。ソートしていないと何がー

番多いかわかりません。

パワーポイントと冊子の使い方なのですが、書いてあることはパワーポイントに書かなくていいと思います。できれば概念図、写真、代表的なものを載せればいいし、逆に、ここに使っている写真は当然こっちにも欲しいです。これだけ見ていれば読まなくてもわかる、あるいは家に持って帰って読めば、これを思い出すようなパワーポイントにするといいと思います。

ありがとうございました。

では、次の説明に移りたいと思います。

(事務局) 続きまして、1つ目の自主事業実施団体を御紹介させていただきます。特定非営利活動法人アクションポート横浜様です。

事業名は、みんなでつくる市民活動百貨、若者の参加による活動体験データベースの作成とマッチングと協働の仕組みづくりです。

準備が整いましたら、26年度事業報告、27年度事業計画の説明を10分でお願いいたします。なお、1分前にベルを鳴らさせていただきます。よろしくをお願いいたします。

(アクションポート横浜) 資料により説明

(小濱委員長) 何か御質問、御意見はいかがでしょうか。

(松村委員) 記事のクオリティの話がありました。取材しても記事にならなかったものもあるという話がありました。何を狙っているのかということだと思いますが、自分で体験したことを書くことはすごくいい振り返りの機会になります。記事としてどう書くかということに焦点を当ててしまうと、実は何を学んだのか、何に気づいたのかということの反省、それに気づく、そういうことに焦点を当てていくのかによって、多分違ってくる部分があると思います。それは拙い言葉かもしれませんが、何か得たものがあるということであれば、それはその人にとってはものすごい大きな価値があるかもしれないと思ったんです。

これをサイトとして運営して行って、どれだけたくさんアクセスを得ていくのかということ。もちろんそれはそれで1つのターゲットかもしれませんが、やはり書くという行為を通して学べるもの。

なぜ、私がそれにこだわってしまうかといいますと、私が最初に市民活動に入ったときに、そこで出している会報があったんですが、その会報は参加者がどんな記事を書いても必ずすべて載せる。何も手を加えないということをモットーにしていました。子どもであっても大人であっても、すべて等しく同じように扱う。社会の包摂ということをそこですごく学んだ気がしました。

ですので、私もこういうことを通して、優れたサイトをつくっていくことも1つのあり方かもしれませんが、そういうサイトはいくらでもあるような気がしていて、せっかく若い人にターゲットを絞っているのだから、社会人であればなかなか頻繁に活動に参加できないかもしれません。だけど、そこで気づいたことは少し余裕ができたときに、次に活かせたり、お金で貢献することができるかもしれないと思ったので、そのターゲットという点でどうなのかなと。

もう少し書くという点にこだわって、そこにあるどんなものであっても多様な機会があって、そこで学んだものがあるというとらえ方ができないのかなということについて、ちょっとお尋ねしたいと思います。

(アクションポート横浜) おっしゃるとおりで、そこがとても大事だと思っています。さっき主観が失われるというところがありましたが、あまりルールを敷きすぎてしまうとそうになってしまうと思っていて、素直に、行ってみてびっくりしたこととか、想像と違ったことなどを書いてもらえたら共感を得られるのではないかと思っています。

レポーターが3人行くんですが、三者三様でいろいろな人が感じた部分を載せていけたらいいなと思っています。

このサイトは、記事が1つ載っていて、実際に行ったレポーターの声しか載ってないんですが、いわゆるアマゾンみたいな感じで、レビューみたいな形で、今後一般のボランティアの人に行ってもらったら、その人たちの意見も入れていきたいなと思っています。

やはりこれからは誰かが数字を決めるのではなくて、そのレビューを見て、この人の言っていることは私と近いかもとか。この人の言っていることだったら共感できるかもというのを見てもらって、自分で活動に行こうと出てもらうようなそういったサイトにしたいなと思っていますので、そのあたりはすごく学び、気づきというところをきちんと考えてもらって、書いてもらうというのはすごく大事ななと思っています。

あとやってみて思ったのは、実際にこのサイトを見て、参加してもらう人を増やすというのも大事な一方で、レポーター自身が行ってみて、その団体に興味をもって定着するというのがいくつかありました。とりあえずやってみようという学生が来て、レポートを書いたり、現場に行ってみたら、それをきっかけとしてその団体に通うようになっていたりしています。

最初はレポーターが定着することは考えてなかったんですが、やはりそういう気づき、学びというのがあって、彼らがその場に参加して定着するのにも出てくるのかなと思っているので、そういった場もつくっていきたいと思っています。

(小濱委員長) 中島委員。いかがでしょうか

(中島委員) プレゼンテーション、ありがとうございます。いろいろな方がかかわって、プレゼンテーションも楽しげで、すごくよかったです。今回の提案が2年目で、3年間で、プレゼンテーションにもあったんですが、継続できる仕組みをどう考えるかということで、いろいろな利害関係者がいて、参加する企業人、企業人だったらその背後にある企業、NPO団体、その人たちが同じ活動をして、主催者側がそれを引き出す必要があると思いますが、どういう付加価値を意識して、整理しながらやれるといいかなというのがあるんです。それをアピールすると新しい訴求ポイントみたいなものが出てくるかなと思いました。

もう1つは、レポーターは何人か人を集めるという話だと思いますが、こういう活動にそもそも全然関心がないというよりは何か関心があったり、きっかけがある方が集まると思います。もし、若者に社会的な課題を知ってほしいというテーマがあるとしたら、松村委員は包摂といいましたが、少し状況が厳しい、排除にあっているような人たちをプログラムがうまくいったら、何かその参加者もターゲティングをするというのも面白いかなと思います。

要するに、こういう活動は、興味、関心がある人がたくさん集まりますが、そういう人は社会の中では何でも頑張る人が多い気がします。そうではなくて、何か悶々として居場所がなく、生きづらさを感じている人を引き込み、そういう人たちがどう変化したかというのも面白そうだと思います。

(アクションポート横浜) どのように付加価値をつけていくかというのがこれからの課題です。実は現在、レポートが7つしかないのですが、これから数が増えていくことによって、いろいろなまとめ方とか、いろいろな切り口で参加のアピールができていこうと思っています。個人にアプローチする切り口も出てくるでしょうし、団体、企業の研究にアプローチができるという形も出てくると思います。最終的には特集みたいなものを組んでいく予定です。

ただ、収入になるかどうかというのは、悩んでいるところで、NPO側から取れないという事情があったり、学生、参加者からも取りにくいところもあるので、バナーというものも考えていますが、そこは1年間で考えていかなければいけません。

もう1つは、おっしゃるとおりだと思っていて、僕らとしては、普通の人に参加してもらいたいなと思っています。普通は何だというのがありますが、意欲があって、僕らがこのようなサイトをつくらなくても、自分で団体に連絡がとれるとか、行けるような人たちというよりは、単位目的で来たような人たちが参加してみてどうだったか、自分に関係あると思ったか。そういったところを大事にしたいと思っています。

いろいろな人に参加してもらいたいと思っていますので、レポーターのアプローチの仕方や

参加者のアプローチの仕方というのは、これからハードルを下げたり、切り口を変えたり、そのあたりはアイデアを絞っていききたいなと思っています。

(小濱委員長) 治田委員、どうぞ。

(治田委員) 発表、お疲れさまでした。サイトも見やすいし、やろうとしていることもわかるんですが、やはりターゲットが明確でないんです。誰に向けて出しているのか。それが見えないと誰からもお金も取れない。これができない、あれができないと言っていたら、これは必要なのかという話になってしまいます。できるかはわかりませんが、サイトの運営費などを、そういうNPOと大学のマッチングをするのに大学の授業として大学から取るとか。

参加大学のバナーを貼ってとかもあると思います。だから、そのあたりが見えないと記事がいくら集まろうが何をしようが、ここにアクセスする動機が見えない。

例えば、Facebookで、これをやったときにどれだけ、370万人の横浜市民がいたら、これぐらいを目指したいとか、最初から目標がないと後からついてこないと思うので、そこを早めに見直さないとあつという間に2年間たちましたという形になるので、私としては、実際は、200万やられています、このサイトの社会的価値を2,000万の価値があるんですよというように見せるぐらいの設計が必要かなと思いました。

せっかく事業をやっているのであれば、やはり外に向けての数字をどう見せるかというのを隠さないで出す。Facebookだったら、2割増しとかじゃ、基準がゼロだったら全然増えないわけで、そこも含めてやはりもう少し出さないといけないと思います。

(小濱委員長) そのほかは御意見ございますか。

(松村委員) 前の報告のときにもお話ししたかもしれませんが、これの緑地保全版をやっています、それは1つの工夫としては、午前中のみで終わる活動だけにしている、ハードルを下げるということではそうなんです。もう一つは、お金をどこから取るかなんですが、いわゆる無償ボランティア中心のところから取ってないです。指定管理者だとか、企業だとかで緑地保全したいというところから取っています。その辺で少し傾斜配分をしながら、取れるところから取るという形でやっています。ただ、狙いとしては、お金がないところに何とか支援したいという気持ちもあるので、なるべく取れるところから取って、そっち側に回していくという、そういう感じですね。

(小濱委員長) 私から短く一言。とにかく最初のハードルだったウェブサイトがうまく立ち上がって、非常によくできて、さらにこれがバージョンアップするというので、まずは第一関門クリアだと思います。いろいろな御意見がありましたが、これからだなという感じがして、と

にかく一つのハードルを超えたので、この勢いに乗って来年度頑張ってください。

(事務局) 続きまして、2つ目の実施事業、実施団体をご紹介します。特定非営利活動法人エティック様です。事業名は、地元企業の若手社員と大学生の地域課題解決力を高めるコミュニティづくりです。

準備が整いましたら、26年度事業報告、27年度事業計画の説明を10分でお願いいたします。なお、1分前にベルを鳴らせていただきます。よろしくお願いいたします。

(エティック) 資料により説明

(小濱委員長) 何か御意見、御感想はありますか。

(三輪委員) 多分厳しい意見がありながら、今年度に関しては特にインターンではなくて、地域協働みたいところに企業がどういうふうな役割を担えるかみたいなことへの挑戦だと理解をして、報告もそういうことだったのかなと思っています。

次年度に向けて、長期インターンにして、タイトル等も大きく変えてやろうとされているのとあわせると、1つは実施事業としてやっていくときに、今回の3つの組織は、来年まずどうなるのかというのと、それから新たに3つ増えるとして、そこと例えば今までの3というのはどうなっていくのかという、要するに企業が地域社会に入っていくというフェーズをどのような展開で考えようとしているのか。これは多分すごい少ない蓄積、丁寧にやるのでそういうことになると思いますが、そこら辺をどう評価するかというところが、結構ポイントかなと思っています。

先ほどのアクションポートさんもそうなんですが、プロボノみたいな形で地域にかかわるというチャンネルを持つというのは、自分の会社の一員としてやるという側面も大事だし、それではない自分がもう一つ別の顔を持つというのも大事だし、どちらを選択するかはその人次第だと思います。

今回の話で言えば、自分の会社としてそれをどう担えるかみたいところをもう少し、なんか学生のインターンになってしまっている気がして、もう少しそこら辺がうまく地域に入り込んでいくような部分をつくり出して、回していくというのがほしいなと思いました。

(小濱委員長) そのほかいかがでしょうか。

(奥山委員) 一応確認なんですが、最初の安藤建設さんのところ、短期的な成果で3週間でまち歩きを実施というのは、これは学生さんとそれから企業の方と地域の方、誰が歩いてつくったのかというところで、やはり学生さんがかかわるところで、でも企業さんは地域にかかわりたいという思いの中で、きっかけとして学生さんが動くことで、企業と地域をつなぐ。

それがうまく回り始めたら学生さんはもういいのか、将来的な見通し、その当たりが少し見えてくると、長期的インターン、短期インターンといろいろ書いてある中で、その辺をどういふふうにとらえたらいいのかなとちょっと難しいなと思いました。いかがでしょうか。

(エティック) まち歩き自体は企業の方と学生たちで行って、マッピングをまとめました。やはり社員側の意識の変革というところも実際にありまして、今までは通勤の駅でおりにいた。商店街がある、学校があるというのをこの活動を通じて意識したというのと、やはり学生たちが企業が社会貢献、地域貢献する意味みたいなものを事前学習して学んで入り、そういう眼差しで質問を投げかけますので、それに対してやはり社員の方も襟を正して説明していくという中で、だんだん自分の言葉になっていくというところの変化は、確実にあったなと思います。

社長の評価として、その後、地域社会との協働の具体的な提案みたいなのが聞かれたというところもあったので、社員の意識の変化にはつなぐことができたと思います。学生の変化というところも3者3様ではありますが、当初と最後で自己評価をいろいろな観点でとって、自己評価が高かった人は非常に低くなっていて、低かった人は自信を持って高くなっているということで、この3週間で彼らの意識の変化を及ぼしたというところは言えたと思います。一方で3週間の限界もあって、結果として、学生たちが自分の足元、地域に目を向けるようになってくれたのかというところは、正直今回の事業で認識した課題でありまして、来年度以降6カ月間のかかわりの中でマインドを持って、協働視点を持って社会にデビューしてもらって、会社員になったとしても、行政の職員になったとしても、協働マインドを持って自分の暮らしている地域においても活動していくような人材を育てたらということで、今回の提案になっております。

(奥山委員) やはり企業も地域もずっと継続していく中なんです、なので学生さんたちにとってはいろいろな気づきとかもあると思いますが、これにかかわった企業さん、それから学校もかかわっている中では、マップも、子どもたちも一緒にやることも含めて、継続的にも見直すということも含めて、継続というのがないとなかなか一過性だと難しいなというところがあって、そのあたりのところはもしかしたら同じ、さっきも質問が出ていましたが、同じところに継続的にかかわって深めない、何かちょっと来て終わっちゃったみたいになるんだろうと思います。そのあたりも大事にしていくといいのではないかと思います。

(時任委員) 私も磯子に住んでいまして、事業計画に書いてあるlocal good CAFÉ 磯子、3月16日月曜日夜、私も参加することになっております。学生さんや社長と一緒に勉強会なども団体でやったりしているんですが、今、奥山委員が言われたように、横浜市の中でlocal good

Caféというのを、コミュニティデザインラボさんがやっています。これを磯子でやろうというところだと思います。そこで終わるのではなく、今後どんなふうに安藤建設さん、もしくは学生さんが地域と協働していくか。

ここに関係者を巻き込んだと書いてありますが、巻き込まれたNPOからしても私たちはずっとそこでやっていくので、たまたまこの事業をエティックさんが取られて、杉田の安藤建設さんが事業の実施者になったから、そういった地域で何かが一瞬波が立つというだけではもったいないかなと思っています。町内会や商店街の方も巻き込んだ形にしないと、結果として残念なことになってしまうので、そのあたりを気にしつつやっていただければと思います。

(エティック) こちらの活動では商店街の会長かPTAの会長のどちらかが主体となって、NPOが新たにできる予定です。そこに安藤建設さんが理事で入られるということも伺っております。小学校の校長先生も入られるということになっているので、まさにlocal goodがそのまま地域で継続してNPO法人として盛り上げつつ、杉田が盛り上がるように、精一杯サポートさせていただきたいなと思っています。

(松村委員) ほとんど同じ指摘かもしれませんが、地域課題を企業とともに解決するというのと、学生の人材、人を育てるとというのが、ごちゃっとなっていて、逆にわかりにくくなっているというか、焦点が絞りにくくなっているのかなという気がしました。前者のほうにシフトしていきたいということですが、多様な主体というのはあくまでも方法論であり、そこから始まってしまうと、結局多様な主体が集まってやると、それは面白いので、何となく成功した感じがしますが、無理のある多様な主体の連携は続かないんです。だから、必然性がないといけない。特に、企業の場合にはその活動、行動が、企業の行動の中に何か位置づけられてない限り、1回や2回はプラスアルファでやること自体が楽しいし、新しい人と出会えるから楽しいけども、だんだん企業の中でプラスアルファをやっていくのは大変だと思います。

なので、中華街パーキングの事例でいうと、アンケート実施とありますが、そもそも最初に地域の課題が何なのかということがあって初めてどういう主体を含めるのかという話があるはずなので、主体が連携してから、課題を見つけていくというのは、どうしてもこじつけになってしまうのかなと思います。

まずは、地域のニーズ把握というところで、モデルケースをつくりたいということであれば、その課題がはっきりしていて、地域の方がよくわかっている、そこにある程度企業の目ぼしが立てられるところを最初から考えたほうがいいのではと思いました。

(エティック) 来年度は学校現場と企業というところが、学校のほうも教育委員会さんのヒア

リングで企業との接点を欲している。それは防災上の観点とキャリア教育の観点だということころを伺ったので、そこでのモデル事例というところを一つ意識していきたいと思っています。

(小濱委員長) そのほかはいかがでしょうか。

エティックさんの話は2回聞いてやっと、どこが問題なのかがよくわかってきました。やっていることは素晴らしいことで目のつけどころはすごくいいんです。ただ少し勘違いしているのが、エティックさんの言っているインターンシップは、ただの学生ボランティアの募集みたいに聞こえてしまいます。インターンシップというのは、大学で学んだことを現場に行き確認するというフィードバックです。

地域がこうあるべきだとか、市民活動がこうあるべきだと授業を聞いて、でも聞いただけではわからないから、現場に行くという話がインターンシップです。エティックさんがすごいのはそれをNPOに派遣するのではなくて、一般企業に派遣することがすごい。普通にNPOに派遣すれば、松村委員がおっしゃったような、段取りを伴わなければいけない。ただあなたの方がやっているのは、企業に行かせるというところでしょう。そうすると、今度は社長さんと話をして、学生に何を教えるかですが、NPOではなくて、企業だからこそできる地域貢献、CSRでも何でもいいんですよ。それを学生に教えるところがあなた方の素晴らしいところなのです。それがちゃんと表現されていないんです。

やろうとしていることはやっとよくわかってきました。大事なのは、普通のNPO法人に派遣するのでは面白くなく、一般企業に派遣するから面白いのです。どこが面白いのか、何がNPOと違うのかということをもっと明確に書けばいいんじゃない。それを大学側に対してもうちはNPOに派遣するわけではありません。一般企業に対してインターンシップとして派遣するんです。そういうことははっきりお持ちのはずだから。それをそのままストレートに言えばいいんじゃないですか。そうすると目的がはっきりすると思います。

(エティック) ありがとうございます。

(小濱委員長) そのほか御意見はございますか。

どうもありがとうございました。今後も引き続き頑張ってください。

(事務局) 委員の皆様、事業実施団体の評価シートですが、本日終了後に委員の皆様にメールで送らせていただきます。委員の皆様からいただいた御意見等を事務局でとりまとめ、委員の皆様を確認した後に、総評を速やかに事業実施主体にお知らせするとともに、本市のホームページ等でも掲載するなどして公表いたします。よろしくお願いいたします。

(小濱委員長) それでは、ここで5分間の休憩に入ります。

(休憩)

ウ 平成27年度横浜市市民活動支援センター自主事業の審査について

(小濱委員長) ウの平成27年度横浜市市民活動支援センター自主事業の審査について、事務局から説明をお願いします。

(事務局) 資料により説明

(小濱委員長) それではこの件について、夢・コミュニティ・ネットワークにつきましては、時任委員。新しい協働を考える会については、奥山委員が関係者となりますので、傍聴席のほうにお移りいただきます。よろしくお願いします。

皆さん、何か御質問、御意見はございますか。

(治田委員) 意見はどの範囲で、できるのでしょうか。

(小濱委員長) 御質問、御意見、あるいは要望事項とかありましたら。もう少しこういうふうにして下さいとか。

(松村委員) 1つ単純な質問で、条件付き採択とありますが、その条件というのは何ですか。

(小濱委員長) 事務局、お願いします。

(事務局) 4ページの(5)にあります。訪問調査を早期に行い、戦略的に計画を立てるとともに、支援の仕方を工夫して支援するカフェの数を増やすことということ。幅広い視野で事業を進めるということ。が付帯条件となっています。

(松村委員) 条件を入れた修正の計画は出ているんですか。

(事務局) 現段階では団体には通知していませんので、通知した後に団体から修正後の計画をいただきます。

(小濱委員長) 治田委員、どうぞ。

(治田委員) 提案されている団体さんを存じ上げているので、今、うちのソーシャルビジネスの相談でも、コミュニティカフェの相談はとても多いです。皆さん、敷居が低いと思っていますが、実は大変なんです。スターバックスなどといったカフェに勝たないといけないわけです。金額的には取れないのに、そういうことをやっていく。中間支援機能というよりは地元の方の話を聞いていると、もう少し福祉事業にかかわる相談とか、要は行政にはなかなか相談に行けないけれども、どうやってやったらいいのかとか。

それかもしくは逆にキャッシュポイントとして、安くカフェは出すけれども、実はこっち側で子育て支援をやっていて、そっちの収入で回すとか、ビジネスモデル、それはよく中島先生

ともお話ししていますが、そこがまだあまり明確ではありません。

実際にここでやってるイータウンさんも、カフェをやりながらウェブ制作の事業をしていて、それを二本立てで回しているから成り立っているのです。小箱ショップも全然儲からないんです。その辺のビジネスモデルというのがどこまでこちらで見られているのか。

提案書がないのでこれ以上何も申し上げられませんが、どういうところがベンチマークされる団体なのか、それが本当に展開可能なのかというところが、本当は議論されてよかったのかなと思うので、それが議論されたか、そういう指摘があるのかがわからない中で、意見は言いづらいなと思って、一番最初の質問をさせていただきました。

(小濱委員長) 酒井委員、何か補足はありますか。

(酒井委員) 残念ながら、今、御指摘いただいたようなところで十分議論ができたというところではないというところかと思います。

(小濱委員長) 中島委員、どうぞ。

(中島委員) 治田委員がご指摘されたことと一緒にですが、字面だけ読んでみると、中間支援機能を有するカフェとなると、このコミュニティカフェネットワークが中間支援組織であって、それはさらに中間支援機能を有するカフェを支援するということになる、事業の継続性とかをまさに確保するのはすごく困難なカフェを対象にするのかなと、そうすると福祉的なカフェなのかなというふうに思える。それはそれで全然問題ありませんが、治田委員の指摘にもありましたように、コミュニティカフェをやりたい人は多種多様で、開設してそれが持続的にその地域にあると、後から価値が出てくる場合も結構あるんです。

だから、どのようなカフェをターゲットにするかというのは、実際問題この事業が終わった後も持続可能なカフェを増やしていくという視点で、何かターゲットを決めるのかいろいろなパターンを抽出するのちよっとわかりませんが、決めないとお金が続かなかったら終わってしまうようなことにもなりかねない気がします。

(小濱委員長) そのほかいかがでしょうか。

(三輪委員) 多分、まち普請事業とか、泉さんのふらっとステーション・ドリームとか、さわやか港南みたいにランチになっているようなものとか、そこら辺がターゲットになっているのかなというイメージを、このメンバーを見ながら思っていたんですが、今、お話があったとおりで、そのようなニーズがある中で、例えば、コミュニティカフェを運営したいと思ったときに、どこにチャンネルを合わせるかというので、相当方向が変わってくるわけです。

それが、例えば金沢区の場合だったら、茶の間支援事業という補助制度があって、さくら茶

屋さんなどは、それで運営をしているわけです。今、空家活用とかいろいろなフェーズがあるので、行政としても、地域ニーズとしても何となくふらっと立ち寄れる場づくりみたいなものが、すごくムーブメントになっていることはわかります。だから、それをもう少し、どのようにネットワークをつくるというのではなくて、どのように整理するかということなのかなというレベルで、例えばこういう場合だったらこういうやり方があるよとか、こういう人はこういうやり方しないですね、とか。そういう整理の仕方を目指そうとしているんだったら、ある種価値はあるかなと思ったり。

あともうちょっと話をしていくと、すみ開きの話だったりとか、いろいろ月々展開していくような話で、それは確かに市民活動の一端を担っている部分であるので、自主事業のところでものすごくキーワードな観点であります。ただ、ちょっと聞いてみないとわからないところがあるので、次回少し、かなり具体的な事業計画を提示していただくほうがいいかなと思います。もう本当に何件とかではなくて、どことどことどこをまず最初のターゲットにしますぐらいではないと、大分イメージできると思います。皆さん、わかっているのです。そこら辺によって、方向がこういうふうに行くんだなみたいなものがあるのかなと思いました。

私も大学で、コミュニティをやっていますから、その難しさは重々承知しております、法的なところもかなり大きいわけです。そういうものも込み込みで考えてもらわないと、どこにどういう方法で、どういう形態でやるかというのも考えるんだたらすごく次の人に対しての提案に、こういうことをやりたいよと思っている人たちに対しての手引き書みたいなものになるのか、データベースになるのか、そこら辺です。

(小濱委員長) そのほかはいかがでしょうか。

(治田委員) データベースができていると思います。だから、その上で何をするのかというのが、私たちとしては、提案書がないので何とも言えませんが、見えない。この状況で意見を言うのは相当難しいので、もう少し違うやり方がないのかなと思います。

でも、ここで意見を言うことによって、かなりブラッシュアップされているので、そこを評価すればいいのかなと思いますが、仕組みはどうなのという感じがします。

(松村委員) この事業内容ではなくて、実際に委員の方がここにかかわっている団体を出しているようなことなど、知ってる方が多いんです。そういう意味では、この事業自体がかなりハードルが高くて、既に活動されていてかなり芽が出ていて、何となくやるだろうなというところに落ち着いているとも言えるんです。

私どもNPOがやっているところもコミュニティカフェのネットワーク、去年だったか、1

回みんな集まって、とりあえず事例報告をしましょうとメーリングでつながっていますが、そこに呼ばれて話をしたこともあります。

そういう感じで集まって、とりあえず皆さんがやっているの、課題共有とか、情報共有、そこで出てくるもの、講座をやっていくとか、ある程度見えてくるものもある。ちょっとそれがさっきのプレゼンテーションに対しての指摘ともつながるんですが、どうやったら潜在的にあるものを引き出していくのか。もう既に頑張っている人たちがつながっていくとか、やっていくというのはいいんですが、そういう意味で代替わりでないかもしれませんが、こういうものにトライしていけるような環境をつくっていくことのほうが課題になりつつあるのかなという気もしています。

(小濱委員長) 自主事業を採択されたら事業計画をプレゼンするんですか。

(事務局) 次回、まだ日にちは決まってませんが、6月ごろ実施されるこの委員会に団体に来ていただいて計画書を発表していただきます。

(小濱委員長) そういう段取りですよ。委員の皆さん、そういう御理解をお願いします。部会でも審議されてきていることですが、条件の部分で、6月のプレゼンに向かって修正しなければいけない点がありましたら御指摘をくださいということでした。

そのほかはございますか。

(三輪委員) 自主事業の提案書なんです、書きやすさなどは書いている団体に聞いたほうがいいのかもしれませんが、例えば市民活動、事業内容、事業計画、事業運営とか、これは事業運営とかは予算の考え方とかかもしれないですが、事業計画は全然違うじゃないですか、全部が、それぞれの団体が持っている社会ニーズというか、社会課題のとらえ方、あるテーマが掲げられていて、それにチャンネルを合わせてみんながやるというわけではなくて、自分はこの課題を持っていてというのが一斉に集まってきて評価されるということですよ。結構、出てきた団体の中で、評価するグループも委員会のほうも大変だと思うし、同じレベルで話をしているのか、あるいはもう少し、どういうふうにそれを一緒にそういう形で書いたものを、点数だけでとらえていいのかというのがすごく、これだけ出ると、数団体くらいだったらまだ何となくいいんですが、12団体は結構大きくて、金額も大きくて、評価の基準だったり、申請書だったり、あるいは仕方みたいなものが、大きいと思います。3年間だし、その後に見直ししながらやっていきますという話は今回エティックさんがされていましたが、その柔軟な書き込み、そういうのがここでプレゼンされるときにはほぼ確定されているわけなので、何かもう少しうまくやり取りできるような、方法論を検討するのもいいのではないかなと思います。

ました。

そうしないと、今回、駄目だった人たちが次にどうトライすればいいのかとか、優先順位みたいなものがあるのかがわからなくなってしまいます。フィードバックの仕方はわかりませんが、これだけ多いのを私は初めて見たような気がするんです。いつも、5とか、それぐらいの中で、2、3に絞られてという話だったので、今回、部会も大変だっただろうし、評価のほうも難しかっただろうと思います。今すぐではないんですが、検討していったらどうでしょうか。

(治田委員) この自主事業というのは200万程度が3年間いただけるという意味では、非常にNPOにとっては大きいと思います。今回、それぞれ皆さん頑張っていますが、最初から3年に決まっているというのはどうなのかと思いました。

例えば、1年目で駄目だったところは一定の評価をもらえなかったら、継続しない。というぐらいに見直すべきではないかと。今回であれば、エティックさんの事業も事前に相談を受けて、今のままでやったら、難しいなと感じたので、ある種こういう場で協議をして、その変更を認めてもらった上で、もう一度事業を仕切り直しますというのは、もしかして仕切り直しではなくて、最初からやったほうがいいのかもかもしれないし、それはケースバイケースになっていくので、取れた後もきちんとやらないと次はないというやり方も1つかなと思います。

あわせて、この自主事業の中で、松村委員がおっしゃったように、テーマは一応今回決まっています、今回は中間支援組織のということになっているんですが、私も中間支援組織にいたのでわかるんですが、中間支援組織ほどお金がもらえないものがないんです。受益者からもらうというのが難しい中で、そういう意味でのこれはとてもありがたいんですが、テーマを中間支援にしてしまった段階で、中間支援を守るための中間支援事業になるんですね。場合によっては、もうちょっと金額下げて、毎回中間支援組織のこともやるんだけど、一方で、そのときの横浜市の中期計画に出たこの課題について、トライしてみる団体、ひよっこの団体にお金を出す、それはまず100万円から出しますよとか、200万をかけてみんなが争奪戦でというのはちょっと無理があるなという感じがして、ほかの自治体に比べて、潤沢のこういう分野のお金があるので、その配分の仕方を検討してもいいのかなという感じがしました。

(小濱委員長) 団体数が増えてきたということは関心が高まってきたということで、そういう意味では、この市民活動の広がりがずっとじわじわと広がってきたことの裏付けなんだろうが、かたや幾人の委員がおっしゃってくれたように、選び方、評価の仕方に当初のものとは合わないものが出てきたのかもしれない。これは時間をかけて話していくことにしましょう。

横浜コミュニティカフェネットワークについては御意見はどうでしょうか。よろしいですか。

プレゼンテーションが6月にあるので、そこでまた御意見をいただければと思います。

この実施事業につきまして、横浜コミュニティカフェネットワークの提案を採択ということで、御了承いただきたいのですが、よろしくをお願いします。

(了承)

(小濱委員長) ありがとうございました。

エ 平成27年度第1回横浜市市民活動推進ファンド団体登録及び助成金交付審査等について

(小濱委員長) それでは、次にエの平成27年度第1回横浜市市民活動推進ファンド団体登録及び助成金交付審査等について、事務局から説明をお願いします。

(事務局) 資料により説明

(小濱委員長) 何か御意見、御質問はございますか。

まずは、登録団体でございます。登録を御了承いただけますでしょうか。

(了承)

(小濱委員長) ありがとうございました。

次に、説明がありました助成金の13事業につきましては、これは三輪先生が理事長をされているものを除きまして11事業につきましては、御了承いただけますか。

(了承)

(小濱委員長) ありがとうございました。では、三輪委員、席をお移りください。

ミニシティ・プラスの2事業については、よろしいでしょうか。

(了承)

(小濱委員長) ありがとうございました。三輪委員、お戻りください。

では、抹消団体についても御了承いただけますか。

(了承)

(小濱委員長) ありがとうございました。それでは、次の議題に移ります。

オ 横浜市市民活動推進ファンド（夢ファンド）の寄附の新たな活用方法（組織基盤強化助成金）について

(小濱委員長) では、次にオの横浜市市民活動推進ファンド（夢ファンド）の寄附の新たな活用方法（組織基盤強化助成金）について、事務局からお願いします。

(事務局) 資料により説明

(小濱委員長) 何か御意見、御質問はございますか。

それでは、事務局から説明のとおり進めるということで、御了承いただけますでしょうか。

(了承)

(小濱委員長) ありがとうございます。

カ 協働を進める際の「公共的又は公益的な活動及び事業」の考え方等の整理について

(小濱委員長) それでは、カの協働を進める際の「公共的又は公益的な活動及び事業」の考え方等の整理について、事務局から説明をお願いします。

(事務局) 資料により説明

(小濱委員長) 何か御意見、御質問等はございますか。

(松村委員) 質問ではないんですが、改めてまとめたものを見たときに、心配というか、やはり字面どおりに公共性とか、読んだときに、非常に狭くとらえられてしまう可能性もある。その辺について、まとめの部分は非常によく考えられている文章だと思いました。これらの議論が非常によく反映されていて、素晴らしいと思いました。

ただ、先進諸国の中で、貧しくて道端に倒れているという場合に、国が手をさしのべるべきだと思いますかという人の割合が、日本は非常に低いです。要するに、手をさしのべることが公共的なサービスかどうかということです。それは自己責任ではないかということです。

そうしたものを僕たちは今議論していると思います。公共性というものについて、それこそどこかで昔の先人国家だったことを想起するわけではなくても、どこかで決めていくというときに、非常に怖い部分がやはりあるわけです。

きちんと議論を積み重ねて、いかにこういった事例、ああいった事例も私たちと同じ社会に生きる人たちであり、そういう人たちに手をさしのべたり、豊かに生きていけるような考えていくのはすごく大事なことだし、それこそ公共性をつくっていくことだと思います。

だから、どこかで線を引くというわけではなくて、それこそ積み上げていくということだと思います。なので、これをわかりやすく伝えて、多分難しいんです。相反することだと思います。そのような文化があって初めて理解されるものなので、逆にわかりやすく伝えようとする、下手に線引きすることになってしまいます。そういったニーズはあるとは思いますが、むしろそうしないことをまとめて書かれていることは素晴らしいのですが、相反するところをいかに運用するとき、大事にしていくのが課題なんだろうなと思いました。最終的なまとめに関しては本当によくまとめられていると感心しました。

(小濱委員長) 本当にそのとおりですね。運用していくなかで幾つか問題も出るかと思えます。

そのほか御質問、御意見はどうですか。

細かな文言とか修正などがまだまだあるかもしれませんが、それは委員長に任せていただきまして、3月末日までに本委員会から横浜市長あてに答申を提出したいと思っています。よろしいでしょうか。

(了承)

(小濱委員長) ありがとうございます。今まで、長い時間をかけて議論してきた皆さんの御意見を盛り込んでまとめましたので、あとは細かい修正だけかと思えますが、今の松村委員の意見も参考に、答申を作って報告します。以上で、審議事項は終了となります。

(2) 報告事項

ア 平成26年度協働の「地域づくり大学校」事業 事業報告について

(小濱委員長) アの平成26年度協働の「地域づくり大学校」事業 事業報告について、事務局から説明をお願いします。

(事務局) 資料により説明

(小濱委員長) 質問等は後からまとめて受けましょう。

イ 「つながりまちづくりフォーラム2015」について

(小濱委員長) 続きまして、イの「つながりまちづくりフォーラム2015」について、お願いします。

(事務局) 資料により説明

(小濱委員長) 報告事項が2点ございましたが、何か御質問、御意見はございますか。

以上をもちまして、すべての議事が終了いたしました。

(3) その他

(小濱委員長) 本日の委員をもちまして、市民協働推進委員会の第1期が終了でございます。

委員の皆様から一言ずつ御挨拶をいただきたいと思えます。(各委員より一言ずつご挨拶)

(小濱委員長) それでは、最後に部長からご挨拶をお願いします。

(小室部長) (部長挨拶)

3 閉会

(小濱委員長) 以上をもちまして、第1期第8回の市民協働推進委員会を閉会いたします。

ありがとうございました。